

「プチ挫折」で身近な行動を変える

2023・3・3 重枝 一郎

社会はコロナ禍の間、10年かかる変化を2,3年で変化したと言われている。私自身、今の社会人の仕事観やキャリア観の変化に戸惑うことも多い。

この変化でよく言われるのが、「終身雇用の崩壊」である。同時に、多くの企業が「働き方改革」「リモートワーク」「副業解禁」などを試行錯誤しながら進めている。これは、1つは不確実な時代に入り、企業が未来を予測できなくなったということである。もう1つは、少子高齢化が進み、労働力が不足してくることである。このスピードがあまりにも速く、頭では理解できても感覚的についていけない自分がいる。終身雇用などこれまで支えとなっていたものがなくなり、代わりに副業で働く場所などに関する自由が与えられたことは、学校教育にも大きく影響を及ぼしていくと考える。

つまり、これまで会社などの「団体軸」で生きてきた時代から、一人一人が「自分は社会に対してどのような価値を提供できるのか」という「個人軸」の時代が変わっていくということだと思う。「自分はどのような価値を生み出せるのか」を個人が自分自身に問い、答えを探す時代である。

そうすると、高校生が、「まだ、将来自分がやりたいことが決まっていません」というのはよくある話だが、大人も同じような問いをもつことになる。

これまでは、社会に対して価値を提供するのは会社であり、働く個人は自分でその点について掘り下げて考えなくても価値提供に貢献できていた。しかし、そういう「団体軸」でなく「個人軸」で考え、行動することが求められるようになると「自分は社会に対してどのような価値を提供できるのか」という問いが直接的にくることになる。

「団体軸」で与えられる価値じゃなく、「個人軸」で自分の価値をつくるということが、私たちの学校という場所においても同じであると考えたとき、みなさんはどう思うだろう。

「新しい価値を生み出す」というと、優秀な人が起こすイノベーションをイメージする人も多いと思う。しかし、当然ながら誰もがスティーブ・ジョブズになれるわけではない。今求められている価値は、そんなにスケールの大きいものだけではないのである。この多様化の時代、多様になればなるほど新たな価値のサイズも小さくなっているのである。スケールダウンして、自分の好きなことでどのような価値を提供できるかを考えていくことが大切になる。生徒にそういうマインドをもたせ、一步を踏み出せるようにするのがこれからのキャリア教育である。

では「個人軸」のキャリアを切り拓いていくために、これからの生徒たちはどのような学びが求められるのか。もちろんこれまでのように「自分が社会にどう価値を提供できるかわからない」なら、大学等で様々な角度から現代社会の抱える問題について知ることが選択肢の一つになる。また「価値を生み出す具体的な方法を身に付けたい」なら、スキルを習得する進路を選択するのも一つの手になる。そう考えるとこれまでと大きく変わらない気がしてくる。だが違うのは、「団体軸」より「個人軸」になっているということである。

「団体軸」の時代は、失敗しない人が生き残ったりし出世したという話を聞く。大人の中にはチャレンジしない人が安定を手に入れていた。しかしこれからの時代は、失敗を恐れず、失敗を糧に変化する人が成功すると言われる。だから生徒たちには、小さくても構わないので失敗できる機会を普段からたくさん設けることが大切だと思う。そういう「プチ挫折」を繰り返し、身近な行動を変える経験が先の力になると思う。それは私たち教師も同じである。